

7、ブーゲー補正：地形補正を行なって平らになった後、ジオイド面との間にある厚さ h 、 ρ の偏平な岩盤による引力を取り除く補く

4 から 6 の補正を施した重力値から正規重力値を差し引いた値をブーゲー異常と呼ぶ

4 結果及び考察

1、地表面付近の砂層の密度は未知であり、ブーゲー補正を行う時にその密度を決める。その最適密度をもとめるために Nettleton の方法を用いた。これは、地形と無相関にブーゲー異常が一定なのが最適密度と求められる。A, B, C ラインで行った (図 3)。A ラインを見ると地形と無相関で一定ではない。B ラインを見ると測点 69 から 102 に 1.9g/cm^3 が地形と無相関に一定である。C ラインを見ると測点 45 から 5 に関して 2.0g/cm^3 と推定できる。今回行った最適密度の求め方は、基盤の形状を一定として仮定して行ったが、地形と無相関でブーゲー異常が一定でないのは、鳥取砂丘の成分が一定でないことが挙げられる。鳥取砂丘の表面の地質図から見ると、日本海側は浜堤砂でその南方は新砂丘である。このように場所が違えば、基盤上面の地質も異なってくるのが分る。これから最適密度が一定でないことが推定できる。

2、A, B, C の結果から、最適密度を B, C の平均をとって仮定密度 1.95g/cm^3 としてコンターマップを作成した。南西の方向に低ブーゲー異常が見られ、特に測点番号 3 では周りに比べてブーゲー異常が低い。北東方向に高ブーゲー異常が見られる、特に測点番号 126, 129 が際立って高いことが

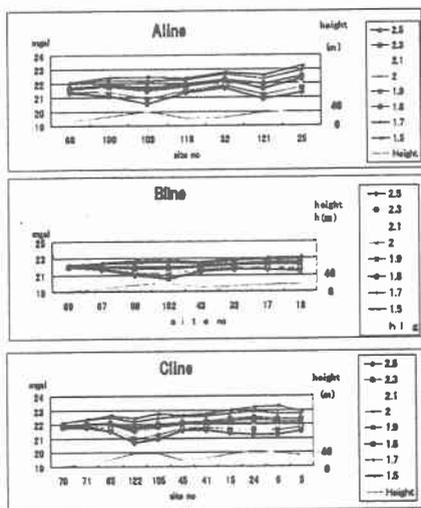


図3 ブーゲー異常値と地形との相関図

分る。F は他の場所に比べると、測点番号 91 で 25mgal と異常に高いことが分る。これは基盤異常に上がっているか、隣の 89 番からの標高の差が 8m なので同じ様に上がっている可能性はある。北西方向に低ブーゲー異常がある、測点番号は短波長の影響があるかもしれない。

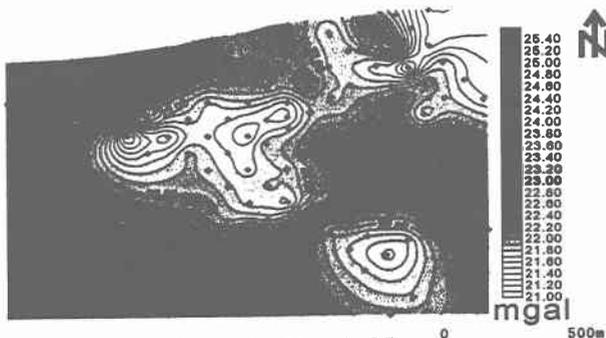


図4 Bouger Anomaly $\rho=1.95$

5 まとめ

- ① 鳥取砂丘の砂層の最適密度は 1.95g/cm^3 だと推定できる。
- ② 鳥取砂丘での仮定密度 1.95g/cm^3 のときのブーゲー異常マップは南西の方に低ブーゲー異常、北東方向に高ブーゲー異常、北西の方に低ブーゲー異常が見られた。